

西洋文化史概説（2）－51第1回小テスト

次の設問が正しければ a を、間違っておれば c を別紙解答用紙にマークせよ。

1. ギリシアの国土面積はおよそ 12 万平方キロあり、日本の約 3 分の 1 ある。
2. ギリシアの国土を南北に連なるのはピンドス山脈などの標高 2000 メーター台の峰が連なる山脈である。
3. ギリシアの国土は大河川に沿って発達した大平野となだらかな丘陵によって特徴付けられる。
4. ペロポネソス半島の中央にはアルカディア高原があり、そこから南にタユゲトス山脈が走っている。
5. アテーナイの年間降雨量は 400 ミリほどしかなく、六月から八月にかけての夏季に雨は集中して降る。
6. 地中海農業の三本柱とはオリーブと葡萄、それに麦である。
7. 大麦が小麦より好まれて栽培されたのは播種から収穫までの時期が短く、乾燥に強く、肥料を必要とせず、反当りの収穫量が多い為である。
8. ヘシオドスによると種まきはシリウスとオリオンが南に傾くころである。
9. 夏のギリシアに吹く風はゼフュロスと呼ばれる。
10. 古代の船乗りにとって夏至の後の 50 日間は紅海に最適の時期であった。
11. 地中海のプランクトン濃度は北海に比べると高い。
12. 地中海の海水温は高く、塩分濃度も高い。
13. 地中海では鮪や鰹、鯛などの暖海性の魚が取れる。
14. 牧畜では牛や豚がギリシアの主要な家畜である。
15. 牛は畑を耕すのにも利用されたが、その力は馬力に換算すると 1.2 馬力ある。
16. アケメネス朝ペルシアを新バビロニアから独立させたのはキューロス 2 世であった。
17. アケメネス朝 2 代目の王カンビュセスはクロイソスのリュディア王国を滅ぼした。
18. カンビュセス死後ペルシアでは王位をめぐる大反乱が起きた。
19. イオニアの反乱を鎮圧したダレイオス 1 世は遠征軍をギリシアに派遣し、マラトンに戦って敗れた。
20. クセルクセスは自ら大軍を率いてギリシアに遠征したが、サラミスに敗れて退却した。
21. ペルシア軍の撤退後、エーゲ海ではアテーナイを中心にデロス同盟が結成された。
22. デロス同盟の中でアテーナイの支配が強まっていくのはサモスの反乱が契機となった。
23. 反乱に失敗した同盟諸国にアテーナイは役人と駐留部隊を派遣し、寡頭制を強要した。
24. 前 446 年に締結された『30 年の平和条約』はギリシアにおけるアテーナイの一極支配を確立した。
25. エピアルテスの暗殺後台頭したペリクレスはテミстокレスやキモンを陶片追放にかけて強力な政治指導力を掌中に納めていった。
26. ペロポネソス戦争はアテーナイの同盟国プラタイアに対してテーバイが攻撃したことが直接の契機となった。
27. ペロポネソス戦争前半のアルキダーモス戦争はニキアスの平和によって終戦した。
28. ペロポネソス戦争全体の転換点はエジプトに派遣されたアテーナイの大遠征軍が壊滅したことによって訪れた。

29. アルギヌサイの海戦に敗れたアテーナイはスパルタに和を請わねばならなかった。
30. ペロポネソス戦争がもたらした災厄について近年それ程過大なものではないと言われるようになっている。
31. アウグストゥスは帝国を皇帝管轄の属州と執政官（コンスル）管轄の属州に分けた。
32. アウグストゥスは執政官命令権や執政官格命令権、護民官職権などを手にすることによって事実上の皇帝権力を作り上げていった。
33. アウグストゥスに始まる王朝をユリウス=クラウディウス朝と呼ぶ。
34. ユリウス=クラウディウス朝はドミティアヌス帝の暗殺によって断絶した。
35. ウェスパシアヌス帝は積極的に属州出身者を登用した。
36. 五賢帝はネルウァから始まる。
37. 五賢帝二代目の皇帝はハドリアヌスである。
38. 帝国はハドリアヌス帝時代に最大版図に達した。
39. マルクス=アウレリアヌス帝時代に帝国の国境を脅かしたのは東方のササン朝ペルシアと北方のマルコマンニ人であった。
40. 五賢帝時代、騎士身分出身者が積極的に登用されるようになった。
41. コンモドゥス帝暗殺の後皇帝に就いたペルティナクスは解放奴隷の子孫であった。
42. セプティミウス=セウェールスは騎士身分出身の皇帝である。
43. ヘラガバルスが帝国内の全自由民にローマ市民権を賦与する勅令（アントニヌス勅令）を出したのは遺産相続税などの増税が目的だった。
44. セウェールス=アレクサンデルを補佐したのは母や法律学者のウルピアヌスであった。
45. 軍人皇帝時代はカラカラの暗殺と共に始まる。